

令和 8 年度 入試出題方針	
入試の種類	一般選抜入試（前期） 生物基礎（選択）
1. 出題の意図 生物基礎は大きく 4 分野「生物の特徴」「遺伝子とそのはたらき」「生物の体内環境の維持」「生物の多様性と生態系」に分かれている。生物基礎を選択できる入試日程は 2 日間にわたるが、入試のどちらの日を選んで、大問 5 題の領域が偏らないように各領域から出題する。細胞とエネルギー、遺伝子とその働き、体内環境の維持と仕組み、免疫、生態系から出題する。 生物にある内容を一定領域に偏らず学習し、生体内の名称、働きをきちんと確認すること、体内環境や免疫については系統立てて理解できていること、語句を覚えるだけに留まらず、現象を文章に表わすことができるかを問う記述問題を作成する。生物は言葉を知っているかどうかを問われる暗記することも勿論のこと、関係性を理解することが大切である。そのため、出題形式として、語句の穴埋め問題、図や表を用いた問題、簡単な文章で内容を説明、計算をする問題など、いろいろな出題形式とする。文章、図、表から読み取る力、読解力を問うようにする。また、語句を覚えるだけに留まらず、現象を文章に表わすことができるかを問う。 短期大学のアドミッションポリシーの基礎的・基本的な知識・技能に生物基礎の知識について具体的な明記はないが、高校で学んだ基礎能力について確認することが必要と考えている。食物栄養学科では「生物」や「化学」などの基礎的な学力・汎用的計算力と明記している。食物栄養学科に入学して必要とされる「生物の体内環境の維持」について 2 日間とも出題をする。 2. 問題の量 1 題、10 分程度で解ける内容とする。5 題作成する。見直しができる問題の量とする。形式としては文書をまず読み、穴埋め、説明、計算などの問題を解いていくようにする。 3. 難易度と平均点の予想 ・ 1 日目 Ⅰ 基礎的問題 体内環境の維持と仕組み Ⅱ 基礎的問題 遺伝情報について Ⅲ 基礎的問題 免疫について Ⅳ 基礎的問題 生態系について Ⅴ 血液・ホルモン ・ 2 日目 Ⅰ 体内環境の維持と仕組み Ⅱ 基礎的問題 腎臓の構造と働き Ⅲ 基礎的問題 DNA の構造 Ⅳ 矢や難題 免疫 Ⅴ 基礎的問題 自律神経系のはたらき ・ 平均としては 60 点台を予想している	